

暗くなるまで待って (Wait Until Dark)

観賞日 2025年8月25日 上映時間 107分

【概要】

制作 1967年 アメリカ

監督 テレンス・ヤング

原作 フレデリック・ノット (『暗くなるまで待って』)

脚本 ロバート・ハワード・カリントン

ジェーン・ハワード・カリントン

音楽 ヘンリー・マンシーニ

撮影 チャールズ・ラング

出演 オードリー・ヘップバーン (スージー・ヘンドリクス)、アラン・アーキン (ハリー・ロート)
リチャード・クレンナ (マイク・トールマン)、 エフレム・ジンバリスト・Jr (サム)



【あらすじ】

写真家のサム・ヘンドリクスは空港で見知らぬ若い女性から突然、人形を預けられる。しかし、その人形には麻薬が隠されていた。そうとは知らないサムは人形を家に持ち帰る。ある日、麻薬犯罪組織の一味がサムの自宅を探しあててやって来る。サムの妻スージーは交通事故が原因で盲目になっていた。一味の3人 (ロート、マイク、カリリーノ) はスージーが盲目であることをいいことに、サムの自宅の前に車を止め一芝居うつ。3人が役割を決め、交互にスージーの前に現れ、人形のありかを聞き出そうという魂胆だ。しかし、スージーも上の階に住む少女グロリアの助けを借りながら、盲目者特有の勘の鋭さを発揮して3人の正体に気づく。やがて3人は仲間割れを起こし、残ったロートがスージーに襲い掛かる。スージーも明かりを消し、あたりを暗闇にしてロートに対抗するが・・・。

007シリーズで大当たりをとったテレンス・ヤングがオードリー・ヘップバーンと組んだ、サスペンス・スリラーの傑作。

【解説】

■ポイント

●テレンス・ヤング (1915年～1994年)

上海の英国租界で生まれる。その後、イギリスに戻りケンブリッジ大学を卒業。卒業後、脚本家、監督になり、1953年の「赤いベレー」でハリウッドデビュー。

1962

年、007の監督に起用され世界的ヒットを記録。(007シリーズは初期の3作品「ドクター・ノオ」「ロシアより愛をこめて」「サンダーボール作戦」を監督)。その後、本作、「クリスマスツリー」(1968年)、「夜の訪問者」(1970年)、「レッド・サン」(1972年)など娯楽作品に才能を発揮。

●受賞 (1983年第55回アカデミー賞)

2部門にノミネートされ、1部門を受賞 (脚本賞)



■見どころ

●ハラハラドキドキのラストシーン

●A・ヘップバーン迫真の盲目役

●不安をあおるヘンリー・マンシーニの音楽。